

秘

海軍公報

第四八九三號

昭和二十年一月二日(火)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一三八六號

昭和二十年戰團訓練等ニ關シ左ノ通定ム

昭和十九年十二月二十八日

海軍大臣

一 戰團訓練

(イ) 戰團訓練ノ實施區分ハ特令スル場合ノ外聯合艦隊司令長官又ハ所屬長官ノ定ムル所ニ依ル

(ロ) 昭和二十年度消耗兵器年額ハ別ニ之ヲ告達ス

二 各種檢定

(イ) 檢定褒賞費ハ被檢定者一人ニ對シ八拾錢ノ割合ニ依リ所屬長官ノ請求ヲ俟テ之ヲ配付ス

(ロ) 所屬長官ハ海軍檢定褒賞令施行規則第三條ノ規定ニ拘ラズ一教育年度ニ於テ檢定作業ニ從事シタル期間四月ニ滿タザル者ニ對シテモ授賞スルコトヲ得

(ハ) 海軍檢定褒賞令施行規則第四條第一項ニ規定スル賞狀ハ之ヲ省略スルコトヲ得

三 競 技

(イ) 所屬長官ハ前號ノ檢定ヲ實施シ得ザル場合ニ於テハ該檢定ニ代フルニ同種類ノ競技ヲ施行セシムルコトヲ得

四 報 告

(ロ) 前項ニ依ル競技費ハ年度ヲ通ジ競技員一人ニ對シ六拾錢ノ割合ニ依リ所屬長官ノ請求ヲ俟テ別途配付ス

戰團訓練規則草案第一百五條及前號ニ依ル各種報告ハ所屬長官ニ於テ必要ト認ムルモノノ外之ヲ省略スルコトヲ得

官房人機密第二〇六四號

空襲等ニ因ル被害者ノ身上取扱内規左ノ通定ム

昭和十九年十二月二十九日

海軍大臣

空襲等ニ因ル被害者ノ身上取扱内規

第一條 本内規ハ大東亞戰爭中海軍軍人軍屬及海軍ノ任務遂行ニ協力中ノ部外者ニシテ帝國内(帝國領土中戰地トシテ取扱ハレアル地域ヲ除ク)ニ於テ空襲其ノ他敵ノ兵器等ニ因リ死亡シ又ハ傷疾ヲ受ケタルモノノ身上取扱ニ關スルコトヲ規定ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ作戰部隊指揮官ノ指揮下ニ在リテ對敵行動中ノ者ニ準ジ取扱フモノトス

一 領守府又ハ警備府所屬各廳(作戰部隊ヲ除ク)勤務員領守府司令長官又ハ警備府司令長官ノ命ヲ承ケ防衛ニ從事シ因テ死亡シタルトキ

秘海軍公報 第四八九三號 昭和二十年一月二日

1175

二 前號ノ外海軍官廳勤務員鎮守府令、警備府令、旅順警備府令又ハ商港警備府令ノ規定ニ依リ鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官ノ指揮ヲ承ケ防衛ニ從事シ因テ死亡シタルトキ

鎮守府又ハ警備府所屬各廳及該警備區内ニ在ル海軍官廳ノ勤務員公務ニ從事中敵ノ兵器等ニ因リ死亡シタルトキハ狀況ニ依リ前項ノ規定ニ準ジ取扱フコトヲ得

第三條 部外者海軍ノ任務遂行ニ協力中敵ノ兵器等ニ因リ死亡シタルトキハ被害ノ前日ヲ以テ海軍軍屬ト爲シ前條第二項ノ規定ニ準ジ取扱フコトヲ得但シ直接海軍ノ業務ニ從事シタル者ニシテ特ニ必要アルモノノ外死亡ニ伴フ給與及海軍葬儀ヲ行フコトナシ

第四條 前二條ノ規定ニ該當スル者ハ被害ノ日以前ニ遡リ最寄海軍部隊（鎮守府又ハ警備府ノ戰時編成部隊）ニ臨時兼勤ヲ命ズルモノトス

第五條 前三條ノ規定ハ第二條及第三條ノ場合ニ於テ傷痕ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス但シ輕傷者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

官房經機密第一八八八號
海軍戰時特例給與規則中左ノ通改正ス
昭和十九年十二月三十日

第一條ノ二中「戰時食料」ノ下ニ「及増加食料」ヲ加フ
海軍大臣

第一條ノ五中「及戰時食料」ヲ「戰時食料及増加食料」ニ改ム
第二十四條ノ二 戰地外ニ在ル海軍官衛又ハ學校（警備隊ヲ兼ネシメラレタルモノヲ除ク）ノ勤務者ヲ以テ編成セラレタル防護團ノ團員ニシテ當該指揮官ノ命令ニ依リ防空任務ニ從事シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ増加食料トシテ一夜ニ付五十錢ヲ支給ス

一 勤務時間ヨリ引續キ服務シ午後八時以後ニ及ビタルトキ
二 午後六時ヨリ翌朝午前六時迄ノ間ニ登壇シ服務シタルトキ

前項ノ一夜トハ午後六時ヨリ翌朝午前六時迄ノ間ヲ謂フモノトス
第一項ノ規定ニ依ル増加食料ハ之ヲ前條ノ戰時食料ト併給スルモノトス

海軍給與令第七十九條ノ七第三號及第四號ニ該當スル者ニシテ第八條ノ二ノ規定ニ依リ夜食料ノ支給ヲ受クルモノ第一項ノ規定ニ該當スルトキハ其ノ多額ニ付之ヲ支給スルコトヲ得

附則
本令ハ昭和十九年十一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

（參照）海軍機密會計法規類集一一一頁

○ 通 牒

軍務一第二四三號
昭和十九年十二月二十九日

海軍省軍務局長

各廳長殿

東京都方面赴任者ノ家族移轉ニ關スル件申述
空襲對策上東京都所在ノ空家ハ解毀整理セラルル方針ニ有之貸
家ノ著シキ拂底ヲ豫見セラルルニ付テハ同都方面各廳ヘノ轉勤
者ヲシテ成ルベク家族ヲ之ニ移轉セシメザル様取計相成度

海人機密第二六五號

昭和十九年十二月三十日

海軍省人事局長
海軍省經理局長

各廳長殿

空襲等ニ因ル被害者ニ對スル慰籍ニ關スル件
通牒

首題ノ件左記ノ通定メラレ候條可然處理相成度

記

- 一 海軍軍人、軍屬及其ノ家族敵ノ空襲等ニ依リ被害ヲ受ケタルトキハ別表(別紙第一)ニ依リ見舞金ヲ贈與スルコトヲ得
- 二 見舞金ハ恤兵金支出トス
- 三 所轄長見舞金贈與ノ必要アリト認メタルトキハ別紙第二ノ調書ヲ作成シ東京都所在ノ各廳ニ在リテハ海軍省經理局長ニ、其ノ他ニ在リテハ所管領守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部長ニ送付シ現金ノ送付ヲ受ケ之ヲ本人又ハ家族ニ贈與スルモノトス

四 所轄長見舞金ヲ贈與シタルトキハ海軍省人事局長及海軍省經理局長(連名)ニ通報シ(通報様式ハ別紙第二ニ準ズ)寫一通ヲ所管領守府又ハ警備府所在地ノ海軍人事部長及海軍經理部長(連名)ニ送付スルモノトス
(別紙添)

經豫第三號ノ二七五

昭和十九年十二月三十日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

現役及優遇職員給補填金等ノ科目ヨリ支出シ得ル範圍ニ關スル件中改正ノ件通牒

昭和十九年經豫第三號ノ六三通牒首題ノ件中左記ノ通改正ス追テ既支出済ノ分ハ其ノ儘トシ科目更正ノ必要無之

記

第一號ノ(二)イ及ロ中在勤加俸ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ、第三項中「在勤加俸」ノ下ニ「賞與」ヲ加フ
賞與 右俸給額ニ相當スル額迄ハ賞與支辨

(參照) 海軍會計法規類集一卷一四四ノ三頁

○雜 款

○昭和二十年一月申ニ於ケル海軍關係員ニ對スル訓令ニ依ル諸講習實施一覽表

秘海軍公報 第四八九三號 昭和二十年一月二日

番號	種別	場所	期日	員數	記	事
一	船長等 (船團運動通信規程)	航校	一、二、七	約三〇		
二	航海士(一航) (應急術)	同右	一、三、三	約三五		
三	航海士(二航) (應急術)	航校	一、三、三	約三五		後半 航校
四	甲板長操機匠 (應急術)	航校	一、三、八	約三六		
五	船舶通信士 (電探)	電測校	一、三、五	約三〇		前半 對潛校
六	普通船員 (水測)	橫防校	一、三、六	各約四〇		
七	機長 (淡煙焚火)	工機校	一、三、七	約四〇		
八	操機長 (同右)	同右	一、三、三	約三〇		
九	船舶機關員 (同右)	同右	一、三、四	約六〇		
一〇	乘船機關員 (同右)	同右	一、三、五	約二〇		
一一	機關員 (重油噴燃)	同右	一、三、三	約三五		
一二	練習船(豫) (對潛警戒)	潛校	一、三、下			

(海軍省教育局)

事務所撤去	事務所名	撤去月日	記	事
第一〇六潜水艦機裝具事務所		一二月一五日		
海防糧宿木機裝具事務所		一二月一六日		

第十四號輸送機裝具事務所
一二月一八日

第六十九號海防艦機裝具事務所
一二月二〇日

第十五號輸送機裝具事務所
一二月二〇日

○本日海軍公報發行セズ

○本日軍糧秘海軍公報第五七號(甲配付)發行セリ

(海人機密第二六五號別紙第一)

見舞金表

(昭和二十年一月二日海軍公報)

事	項	軍人、軍屬	家	族
死	亡	一〇四		五〇四
負	傷(輕傷者ヲ除ク)	一		五〇
住家	全壊、全焼	一〇〇		一
住家	半壊、半焼	五〇		一

備考

- 一 本人死亡ニ對スル見舞金ハ昭和十九年官房人機密第二〇六四號第三條但書ニ規定スル給與及海軍葬儀ヲ行ハレザル者ニ對シテハ供花料トシテ葬儀ノ際之ヲ呈スルモノトス
- 二 死傷家族ニ對スル見舞金ノ金額ハ被害者ノ員數ヲ問ハザルモノトス
- 三 家族トハ軍人軍屬タル本人ニ扶養セララル者ヲ謂フ
- 四 二回以上ノ被害及住家以外ノ被害ニ付テハ狀況ニ依リ詮議スルモノトス

(海人機密第二六五號別紙第二)

敵襲ニ因ル被害調査書

所

(昭和二十年一月二日秘海軍公報)

轄

(備考) 人體被害ト住家被害トハ別紙トス

住	所	被害区分	被害者	官職	氏名

1180

海軍公報附錄

昭和二十年一月二日(火)
海軍大臣官房

本邦駐在外國武官名簿 (昭和二十年一月二日調)

一、海軍武官、輔佐官

別國	職	官	勳	氏名	現官任命年月日	齎任年月	事務所、宿所	家族
獨	大使館附 海軍武官	海軍大將	旭三 瑞三	P. W. Wencker	昭和一九三二・七	昭和一九三三	(事務所) 麹町、永田、一ノ四(大使館内) (銀座 七〇七二) (海軍武官) (同 二二二一七) (密専用) (同 三〇三三八) (大使館) (同 三〇三三三) (經山) (宿所) 澁谷、代々木初盤、四七六(四谷 七〇八二)	夫人 息子
獨	輔佐官	海軍大佐		Werner Vernehren	同 一九三七	同 一九三七	(宿所) 鎌倉、材木座、一一八二 (海濱ホテル内) (鎌倉 三三三四)	
獨	輔佐官	中 海軍機 關 佐		Thomas Bloomfield	同 一九三七	同 一九三三	(宿所) 麻布、新龍土、一(赤坂 三八四四)	
獨	輔佐官	海軍少佐		Paul Pius Wigand	同 一九三九	同 一九三九	(宿所) 鎌倉、材木座、四七九	夫人
獨	輔佐官	海軍大尉		Norbert Bellstedt	同 一九三五	同 一九三一	(宿所) 麹町、平河、二(九段 三五七四)	夫人 孀子
蘇	大使館附 海軍武官	海軍代將		Michael Dimitrievich Kulikov	同 一九三一	同 一九三三	(事務所) 麻布、狸穴、一(大使館内) (宿所) 澁谷、代々木、大山、一〇六七(四谷 七六九五)	

海軍公報附錄

國 佛		國 中		國 土		國 泰		國 獨		國 佛		國 泰			
職	官	勳	氏 名	現 任 年 月 日	着 任 年 月	事 務	家 族	職	官	勳	氏 名	現 任 年 月 日	着 任 年 月	事 務	家 族
大使館附 海軍武官	海軍中佐	瑞五	Francois Bady	同 一七、九、九	同 一七、八	(事務所) 麻布、富士見、三三(大使館内) (宿所) 品川、五反田、五ノ七八(大崎、二一〇四)		大使館附 海軍武官	海軍上校		王 經 武	同 一三、二	同 一八、四	(事務所) 麻布、材木、五五(赤坂、五〇六四)	夫人 息子
大使館附 海軍武官	海軍參謀		Sheraf Karapinar	同 一九、八、三〇	同 一九、二〇	(事務所) 澁橋、柏木、四ノ九三四(澁橋、一八三五)		大使館附 海軍武官	海軍大佐	旭四	Sombourana Dindom	同 一八、七、三〇	同 一九、二〇	(事務所) 澁谷、青葉、七(青山、四六三〇)	
大使館附 海軍武官	海軍中佐		Pian Nimmue	同 一七、七、一	同 一八、八	(宿所) 麻布、新館土、二二		大使館附 海軍武官	海軍大佐	旭三	Wolfgang Von Gronau	昭和 一七、七、八	昭和 一四、五	(事務所) 麹町、永田、二ノ四(大使館内) (宿所) 麻布、霞、三三(赤坂、三〇〇四)	
大使館附 海軍武官	海軍機佐		Wilhelm Nehmiz	同 一三、八、一	同 一三、三	(宿所) 赤坂、氷川、一七(赤坂、一六一二)	夫人	大使館附 海軍武官	海軍少佐		Davout d'Auerstaedt	同 一四、九、二	同 一七、九	(事務所) 麻布、富士見、三三(大使館内) (宿所) 赤坂、榎坂、三三(赤坂、四六〇九)	
大使館附 海軍武官	海軍少佐		Chamrat Winaakup	同 一八、四、五	同 一八、三	(宿所) 品川、五反田、五ノ六〇(大崎、三二六一)		大使館附 海軍武官	海軍少佐			同 一八、四、五	同 一八、三	(宿所) 品川、五反田、五ノ六〇(大崎、三二六一)	

獨				別國	四、駐在士官				伊	洲		滿	別國				
海軍武務所勤官	海軍武務所勤官	海軍武務所勤官	海軍武務所勤官	職	官	勤	氏名	現官任命年月日	着任年月	宿	電	話	所	宿	話	所	家族
海軍主計	海軍大尉	海軍少佐	海軍少佐	大尉	少佐		Otto Saunpe	同 一八七 一 同 一八五	同 一八七 一 同 一八五	(宿所) 鎌倉、材木座、一一八二 (海濱ホテル内) (鎌倉 四)							
	Fritz Paul Dehmelt	Walther Von Zatorski	Friedrich Wilhelm Schroeder	大尉	少佐			同 一七二 一 同 一七六	同 一七二 一 同 一七六	(宿所) 麻布、材木、三一							
				大尉	少佐			同 一九四 一 同 一九六	同 一九四 一 同 一九六	(宿所) 横濱、中區、山下、五三 (ルネ、ハウス内) (本局 四七三 一 一五)							
				大尉	少佐			昭和 一六 八 一 昭和 一八 四	昭和 一六 八 一 昭和 一八 四	(宿所) 小石川、富坂、二丁目 (小石川 二五三 二)							
				大尉	少佐			同 一五 七 三 同 一九 六	同 一五 七 三 同 一九 六	(宿務所) 芝、三田、一ノ二八 (三田 一五八 〇)							
				大尉	少佐			同 一八 三 二 同 一八 二 一	同 一八 三 二 同 一八 二 一	(宿所) 赤坂、丹後、五五							
				大尉	少佐			同 一七 八 一 同 一九 九	同 一七 八 一 同 一九 九	(宿所) 麻布、櫻田、三〇 (赤坂 一五七 五)							
				大尉	少佐			昭和 一九 三 一 昭和 一九 三 三	昭和 一九 三 一 昭和 一九 三 三	(宿務所) 麹町、丸の内、二ノ一八 (丸の内 一〇六三 〇 大使館内(五階)) (丸の内 六六八 七 大使館交換) (宿所) 四谷、大塚、二九 (武官室)							
				大尉	少佐			同 一八 三 二 同 一八 二 一	同 一八 三 二 同 一八 二 一	(宿所) 赤坂、丹後、五五							
				大尉	少佐			同 一七 八 一 同 一九 九	同 一七 八 一 同 一九 九	(宿所) 麻布、櫻田、三〇 (赤坂 一五七 五)							
				大尉	少佐			昭和 一九 三 一 昭和 一九 三 三	昭和 一九 三 一 昭和 一九 三 三	(宿務所) 麹町、丸の内、二ノ一八 (丸の内 一〇六三 〇 大使館内(五階)) (丸の内 六六八 七 大使館交換) (宿所) 四谷、大塚、二九 (武官室)							

備考	國		
	海軍武官事務所勤	海軍技術大尉	海軍中尉
本表ハ武官就任ノ順序ニ依ル 備考	Gerhard Schoon	Heinz Priesmeier	Juergen Herr
	同 一九三二	同 一七四一	同 一七四一
	同 一八四四	同 一八六六	同 一九五五
	(宿所) 横濱、中區、山下、五三 (ルム、ハウス内) (本局四七三二一五)	(宿所) 鎌倉、材木座、一一八二 (海濱ホテル内) (鎌倉四)	(宿所) 金澤、上弓ノ、七二

秘

海軍公報 第四八九四號

昭和二十年一月四日(木)

海軍大臣官

12 號

○令 達

内令第一三八三號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和十九年十二月二十五日

海軍大臣

吳鎮守府ノ部中第三四一海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第三四三海軍航空隊

松山航空基地(愛媛縣温泉郡)

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第一三八四號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル 驅逐艦 莖

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル 第一百十八號海防艦

佐世保鎮守府在籍

第一百十八號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年十二月二十七日

海軍大臣

内令第一三八七號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月二十八日

海軍大臣

第十六警備隊ノ項驅潛特務艇ノ關「第六十七號(鎮)」ノ次ニ「第二百二十號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一三八八號

特設船舶救難本部令左ノ通定メラル

昭和十九年十二月三十日

海軍大臣

特設船舶救難本部令

第一條 大東亞戰爭中東京ニ船舶救難本部ヲ置ク

第二條 船舶救難本部ハ沈没、擱挫、受損船舶其ノ他ノ救難、浮揚、解體及撤收ニ關スル事項ヲ掌ル

第三條 船舶救難本部ニ總務部及會計部ヲ置ク

各部事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條 船舶救難本部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長

總務部長

秘海軍公報 第四八九四號 昭和二十年一月四日

五

1185

<p>七 船舶救難ニ關スル部外會社ニ關スルコト</p> <p>八 器材ノ整備及企畫ニ關スルコト</p> <p>九 其ノ他會計部ノ所掌ニ屬セザルコト</p> <p>十 統計及年報材料ニ關スルコト</p> <p>第八條 會計部ハ左ノ事務ヲ掌ル</p> <p>一 船舶救難ニ關スル資材及物品ノ準備、保管及出納ニ關スルコト</p> <p>二 船舶救難ニ關スル資材及物品ノ所要量調査及配分ニ關スルコト</p> <p>三 船舶救難ニ關スル部外會社ノ調査ニ關スルコト</p> <p>四 船舶救難本部關係豫算ニ關スルコト</p> <p>五 船舶救難本部關係勞務者ノ給與ニ關スルコト</p> <p>六 統計及年報材料ニ關スルコト</p> <p>內令第一三九〇號</p> <p>特設艦船部隊令中左ノ通改正セララル</p> <p>昭和十九年十二月三十日</p> <p>海 軍 大 臣</p>	<p>第二條第二號中「特設特別工作部」ヲ削ル</p> <p>第十七章ノ二ヲ削ル</p> <p>第十七章ノ三ヲ第十七章ノ二トス</p> <p>第七十一條ノ九ヲ第七十一條ノ三トシ以下第七十一條ノ十五迄順次繰上グ</p> <p>(內令提要卷一、四七頁參照)</p>	
<p>內令第一三九一號</p> <p>特設艦船部隊職員服務規程中左ノ通改正ス</p> <p>昭和十九年十二月三十日</p> <p>海 軍 大 臣</p> <p>第三十條ノ三ヲ削ル</p> <p>(內令提要卷一、六二頁參照)</p>	<p>內令第一三九二號</p> <p>潜水隊編制中左ノ通改正セララル</p> <p>昭和十九年十二月三十日</p> <p>海 軍 大 臣</p> <p>第六潜水隊ノ項ノ前ニ左ノ一項ヲ加フ</p> <p>第一潜水隊 伊號第十三、伊號第四百</p> <p>(內令提要卷一、七〇頁參照)</p>	<p>官房大機密第二〇五九號</p> <p>左ノ各號ニ依リ臨時飛行機整備衛(修補)講習ヲ施行ス</p> <p>鎮守府司令長官ハ第三號ノ講習員ヲ各次講習開始期日迄ニ横須賀海軍航空隊ニ入隊セシムベシ</p> <p>昭和十九年十二月二十六日</p> <p>海 軍 大 臣</p> <p>一 講習目的</p> <p>航空隊修補科ノ幹部ノ配置ニ充ツベキ者ヲ養成スルニ在リ</p>

秘海軍公報 第四八九四號 昭和二十年一月四日

二 講習項目
 (イ) 飛行機修補ニ必要ナル要務
 飛行機整備術

(ハ) 飛行機修補術
 其ノ他必要ト認ムル事項
 三 講習回次、講習期間及講習員

講習回次	講習期間		横須賀	鎮守府別講習員數(標準)	記
	開始日期	期 間			
第一次	昭和二十年一月一日	九 八 一〇 三	九	八	一、主トシテ准士官學生基礎教育ヲ終了セル 工兵曹長ノ内航空隊配員豫定ノ適任者ヲ 選拔シ引續キ本講習ニ参加セシムルモノト 二、本講習ヲ終了シタル者ハ其ノ特修科目ニ 應ジ沼津工務學校高等科工務ヲ履修シタ ルモノト看做ス於テハ上記標準員數内ニ於テ 三、各領守府ニ於テハ上記標準員數内ニ於テ 各種専修科目ノ履修者ヲ毎回適宜選出シテ 四、本講習員ノ身上取扱ハ學生ニ準ズルモノト ス
第二次	二月二十日	九 八 一〇 三	九	八	
第三次	四月十日	九 八 一〇 三	九	八	
第四次	七月一日	九 八 一〇 三	九	八	
第五次	八月二十日	九 八 一〇 三	九	八	
第六次	十月五日	九 八 一〇 三	九	八	

四 講習指導官

横須賀海軍航空隊司令

五、報 告

海軍練習航空隊規則第五條第二項ニ依ルノ外海軍航空本部長ニ送付スベシ

官房人機密第二〇六九號

左ニ依リ昭和十九年九月一日任官ノ海軍生徒出身各科少尉ノ考課表ヲ調製進達スベシ

昭和十九年十二月三十日

調 製 期 日 昭和十九年十二月二十五日
 任 用 進 級 候 補 名 額 昭和二十年一月五日
 調 製 官 ニ 進 達 期 限 同
 海 軍 大 臣 限 同
 進 達 期 限 同
 一 月 二 十 日

○ 通 牒

官房機密第七號

昭和二十年一月二日

海軍省構内各廳長殿

海軍省本廳、同分室公用使發差内規ノ件通牒
首題ノ件左ノ通定メラレ來一月八日ヨリ之ヲ實施セシメラレ候
追テ昭和十九年三月官房第一六〇號ハ之ヲ廢止セラレ候

海軍省本廳、同分室公用使發差内規

第一條 海軍省本廳構内各廳(本内規中本廳ト稱ス)、海軍省分
室構内各廳(本内規中分室ト稱ス)間及分室相互間ニ往復ス
ル文書ハ已ムヲ得ザルモノノ外總テ本内規ニ規定スル公用使
ニ依リ之ヲ送達交換スルモノトス

第二條 公用使ノ往來ハ定期自動車便(以下定期便ト稱ス)ア
ル分室ニ在リテハ定期便ニ依ルモノトシ其ノ他ノ分室ニ在リ
テハ適宜ノ交通機關ニ依ル

第三條 公用使發着場所ヲ本廳ニ在リテハ大臣官房、分室ニ在
リテハ内務主任ノ定ムル所トス

第四條 本廳構内大臣官房及分室ニ文書交換棚ヲ置ク

第五條 送達ヲ要スル文書ハ各廳ニ於テ送達簿(送達先各廳毎
ニ別冊トシ文書ノ離脱セザル如ク固縛スルモノトス)ヲ附シ
之ヲ當該文書交換棚ニ收ムルモノトス

第六條 公用使ハ左腕ニ別圖ノ如キ標識ヲ附シ送達文書ノ授受
ニ當リテハ互ニ身分證明書ヲ提示シ公用使タルコトヲ確認
ス

第七條 公用使ハ送達書類ヲ公用總文ハ書類ニ收メ確實ニ鎖
ス

鑰ヲ爲シテ運送スルモノトス

第八條 定期便ニ依ル公用使ノ發差區分、送達文書ノ授受等ハ
左ノ各號ニ依ル

一 公用使ハ定期便毎ニ左ノ區分ニ依リ之ヲ發差ス但シ各定
期便毎ニ公用使ノ往復ヲ要セザル分室ニ於テハ當該分室内
務主任ハ海軍省副官ト協議ノ上特定ノ定期便ノミニ付公用
使ヲ發差スルコトヲ得

定期便乗車專務ノ公用使

大臣官房

分室、同最寄定期便停留場間ノ公用使 當該分室

二 公用使ハ送達文書ニ送達簿ヲ附シタル儘停留場ニ於テ之
ガ授受ヲ行フ

三 文書交換棚使用時間ハ本廳ニ在リテハ定期便初發時、分
室ニ在リテハ内務主任ノ定ムル公用使初發時ノ各三十分
前ヨリ最終定期便ニ依ル公用使歸還時刻十五分後迄トシ各
廳ハ公用使到達時刻毎ニ公用使發着場所ニ受領人ヲ派遣シ
送達簿ニ捺印ノ上到達文書ヲ受領シ送達簿ハ當該差出廳文
書交換棚ニ收ムルモノトス

第九條 定期便ニ依ラザル分室ノ公用使ハ分室ヨリ之ヲ發差シ
送達文書ノ授受等ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用スルノ外分室内
務主任ノ定ムル所ニ依ル
(別圖添)

海人第一二號ノ一四五

昭和十九年十二月三十日

海軍省人事局

部内各廳御中

現役海軍士官名簿電報符改定ノ件通知

海軍主計見習尉官ニ對スル電報符ハ本年十二月二十四日之ヲ廢止シ十二月二十五日任用海軍主計少尉及海軍主計見習尉官ニ對スル電報符ヲ左記ノ通改定セラレ候

記

海軍主計少尉一方井卓藏ヲ「二七二八」、海軍主計見習尉官小

泉喜與士ヲ「三三二五八」トシ各任命順序ニ從ヒ相當番號ヲ附與シ「二七一六」ヲ缺番號トス

○雜 款

○司令掃海艇變更

第四十三掃海隊司令ハ十月十一日司令掃海艇ヲちとせ丸ニ變更セリ

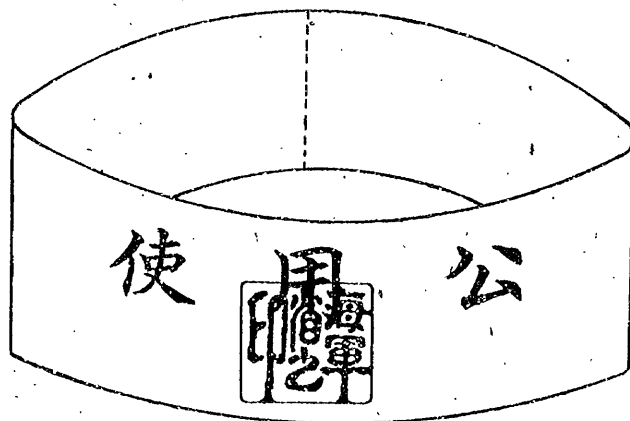
(第四十三掃海隊)

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場 所	記事
一月十一日 一三〇〇	故海軍中佐佐々木 榮外諸勇士	熊本地方海軍人事部長	熊本市公會堂	佛式
一月十二日 一三〇〇	故海軍少佐土井幸夫外諸勇士	仙臺地方海軍人事部長	仙臺市東本願寺	同
一月十八日 一〇〇〇	故海軍中將梶岡定道外諸勇士	橫須賀海軍人事部長	橫須賀市海軍靈安所	同
一月二十日 一〇三〇	故海軍少佐遠藤雅雄外諸勇士	盛岡地方海軍人事部長	盛岡市縣公會堂	同
一月二十七日 一一〇〇	故海軍大佐梶貝襄治外諸勇士	宇都宮地方海軍人事部長	宇都宮市縣教育會館	同
一月二十七日 一一三〇	故海軍少將中島四郎外諸勇士	靜岡地方海軍人事部長	靜岡市市公會堂	同
一月二十七日 一二三〇	故海軍大佐土橋豪實外諸勇士	長野地方海軍人事部長	長野 藏・春閣	同

○本日海軍公報發行セズ

(官房機密第七號別圖)



一 本標識ハ各分室毎ニ作製(海軍省印ハ海軍省副官ニ提示シ其ノ捺印ヲ受

ク)スルモノトス

二 寸法ハ適宜トス

三 地ハ白布字ハ黒書ス

(昭和二十年一月四日秘海軍公報)

1192

海軍公報 第五〇八〇號

昭和二十年一月六日(土) 海軍大臣官房

○令 達

官房第一三三四號

海軍徵備船舶職員表彰規程左ノ通定ム

昭和十九年十二月六日

海軍大臣

海軍徵備船舶職員表彰規程

第一條 海軍徵備船舶職員ニシテ勤務優良且海上輸送又ハ海上交通保護上貢獻シ以テ徵備船舶職員ノ模範ト爲スベキモノニ對シテハ該船舶ヲ使用スル艦船部隊官衙ノ所屬長官(海軍省配屬船ニ在リテハ海軍運輸本部長トス以下之ニ同ジ)ハ昭和十六年官房第五四九七號ノ二表彰内規及昭和十八年内令第一九六三號大東亞戰爭中艦船部隊航空機及海軍軍人軍屬表彰規程ニ依ルノ外本規定ニ依リ之ヲ表彰スルコトヲ得

第二條 所屬長官ハ運輸ノ成績及海上交通保護ニ關スル地方在勤海軍武官服務要領第二十五條ノ規定ニ依ル被襲擊報告、護衛船舶指揮官又ハ護衛艦艇長等ノ報告又ハ通報、徵備船舶指揮官又ハ船長ノ報告等ヲ基礎トシ被表彰者ヲ選定スルモノトス

海軍公報 第五〇八〇號 昭和二十年一月六日

第三條 表彰ハ該當者アリタル場合其ノ都度即時之ヲ行フモノトス

第四條 表彰ハ表彰狀ヲ授與スルノ外別ニ定ムル所ニ依リ副賞ヲ授與スルコトヲ得此ノ場合海軍徵備船舶船長召集規則ニ依リ召集セラレタル船長ニ對シテハ副賞ヲ授與セザルモノトス

表彰標準及其ノ部外公表要領ハ別表ニ依ル

表彰狀ノ様式ハ別紙第一様式又ハ第二様式ノ例ニ依ル

第五條 所屬長官ハ表彰狀及副賞ヲ授與シ海軍運輸部長(支部長)、地方在勤海軍武官又ハ其ノ他ノ海上交通保護機關ノ長ニ委嘱スルコトヲ得

第六條 船舶乗組員一同ヲ表彰スベキ場合ニシテ該船舶喪失シタルトキハ表彰狀及副賞ハ之ヲ當該船舶乗組代表者(代表者アラザルトキハ船舶管理者)ニ授與シテ處理セシムルモノトシ個人トシテ表彰セラルベキ者死亡シタルトキハ船舶運營會ヲ經テ之ヲ遺族ニ交付スルモノトス

第七條 所屬長官本表彰ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ都度左ノ區分ニ從ヒ別紙第三様式ニ依ル表彰報告(通報)ヲ爲スモノトス

<p>報告(通報)</p> <p>海軍大臣 (軍務局長) (兵備局長) (人事局長) (教育局長) (經理局長) (法務局長) (軍令部)</p>	<p>通</p> <p>運輸本部 海上護衛總司令部 功績調査部 各鎮守府、警備府 第一、第三及第四海上護衛隊司令部 船務警戒部、資料提出(表彰上市)者 航海學校、對岸學校、工機學校其ノ他 部内關係各部</p> <p>報</p> <p>記</p> <p>事</p>
<p>外部</p> <p>關係各省、外地置籍船舶所管轄、船舶運營會、船舶所有者、其ノ他關係各部</p>	<p>内 部</p> <p>必要ノ向ニ 通報スルモ トス</p>

第八條 所屬長官ハ要スレバ表彰ニ關スル細則ヲ定メ所要ノ向ニ報告(通報)スベシ

前項ノ細則ヲ定ムルニ當リテハ相互ニ連絡ヲ圖リ之ヲ齊一スル期スベシ

附 則

本令ハ昭和十九年一月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ第一條ニ規定スル海上輸送關係ノ表彰ニ關スルモノニ限り大東亞戰爭始期ニ遡リ之ヲ適用スルコトヲ得

(別紙添)

官房第一三三五號

海軍徵備船船員副賞授與内規左ノ通定ム

昭和十九年十二月六日

海 軍 大 臣

海軍徵備船船員副賞授與内規

第一條 海軍徵備船船員表彰規程ニ依リ表彰セラレベキ者ニ對スル同規程第四條ノ副賞ノ授與ハ本内規ニ依ル

第二條 副賞授與標準ハ別表甲及乙ノ如シ

第三條 表彰ノ等級ハ甲級及乙級ヲ夫々上中下ニ別チ表彰銜資料ノ内容ヲ勘案シテ之ヲ決定スルモノトス

(別表添)

官房第一二八二號

昭和十八年官房第一二二六號中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月二十八日

海 軍 大 臣

第一條第一項本文中「委託スルコトヲ得」ヲ「委託スルモノトス」ニ改メ同項第一號中「奏任官待遇以上ノ囑託者」ノ下ニ「(第四號ニ掲グル者ヲ除ク)」ヲ加ヘ第四號ヲ第五號、第五號ヲ第六號トシ第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 備徵船船員ニ付テハ所管鎮守府ノ海軍人事部長

○ 雜 款

十四版海軍諸例則追録第三十九號(昭和十九年十一月十五日現在)十二月二十九日發送済

(海 軍 大 臣 官 房)

(官房軍第一三三四號別紙)
(第一様式) 日本標準規格 A 3 Ⅱ 297 × 420

甲級第	號
表	彰 狀
海軍徴備船舶職 氏 名	
右者(海軍徴備船日本丸軍屬トシテ直接敵ト戰 鬪行爲ヲ爲シ拔群ノ功績アリ) 仍テ茲ニ褒狀ヲ 授與シテ之ヲ表彰ス	
年	月 日
所屬長官位勳功府 氏 名 團	

註(一)内ハ記載例

(昭和二十年一月六日海軍公報)
(第二様式) 日本標準規格 A 3 Ⅱ 297 × 420

乙級第	號
表	彰 狀
海軍徴備船舶乗組 一 同	
右者(海軍軍事輸送ニ從事シ功績顯著ナルモノ ト認ム) 仍テ茲ニ賞狀ヲ授與シテ之ヲ表彰ス	
年	月 日
所屬長官位勳功府 氏 名 團	

海軍徵備船船員表彰標準及部外公表要領

等級	表 彰 標 準	部外公表要領
甲 級	一 直接敵ト戦闘行爲ヲ爲シ拔群ノ功績アリタル者〔船舶(乗組員全般ヲ意味ス以下同ジ)〕 二 長期ニ亘リ困難ナル海軍部隊ノ補給ヲ完遂シ又ハ緊要ナル海軍軍事輸送ニ拔群ノ成績ヲ擧ゲタル者(船舶) 三 敵潜水艦、飛行機、艦船等ヲ早期ニ發見シ作戦ヲ有利ニ導キ又ハ船舶(船團)ヲ危険ヨリ免レンメタル者(船舶) 四 困難ナル救難若ハ應急作業ニ從事シ功勞特ニ顯著ナル者(船舶)又ハ極メテ重大ナル錯誤ヲ未然ニ發見シ事故防止ニ貢獻シタル者 五 船體、機關等ノ整備極メテ優良ナル者又ハ部下教育訓練若ハ管掌事項ニ關シ特ニ優秀ナル成績ヲ擧ゲタル者 六 前各號ノ外海上交通保護上又ハ海軍軍事輸送任務達成上直接間接寄與スル所大ニシテ海軍徵備船船員ノ儀表ト爲ルベキ者	機密保持上許容範圍ニ於テ表彰内容又ハ表彰ノ事實ヲ官公機關誌紙及一般新聞紙、雜誌ニ掲載公表セシムルトアルベシ
乙 級	一 敵ト戦闘行爲ヲ爲シ又ハ會敵ニ當リ報告(通報)其ノ他ノ處置適切ニシテ軍事任務ノ遂行ニ功績アリタル者(船舶) 二 海軍軍事輸送任務ニ從事シ功績顯著ナル者(船舶) 三 船團航行其ノ他ノ場合ニ於テ克ク海上交通保護ノ目的ニ添ヒ推奨ニ値スル者(船舶) 四 困難ナル救難ニ從事シ又ハ事故ヲ未然ニ防止シ賞スルニ足ル者(船舶) 五 船内諸整備良好ナル者(船舶)又ハ指導訓練ノ實績優良ニシテ一般徵備船船ノ模範ト爲ルベキ成果ヲ擧ゲタル者 六 前各號ノ外徵備船船員トシテ善行アリタル者	機密保持上許容範圍ニ於テ表彰内容又ハ表彰ノ事實ヲ官公機關誌紙及一般新聞紙、雜誌ニ掲載公表セシムルトアルベシ

(官房第一三三四號別紙)
(第三様式)
件名番號

昭和 年 月

日

殿

所 屬 長 官

(昭和二十年一月六日海軍公報)

海軍徵備船船員表彰報告(通報)

表彰番號	第一〇號
船舶名	(日本丸)
職名	船長
氏名	(海野太郎)
用途別	(二雜運)
配屬	(運輸本部)
所管	(横 鎮)
表彰標準	(甲級 號)
年月日	(一九三〇、一)
事 由	(敵魚雷回避敢會敵處 置適切)

註 () ハ記載例ヲ示ス

(官房軍第一三三五號別表甲)

(昭和二十年一月六日海軍公報)

個人副賞金額表

1198

表彰等級		
甲級	上	100圓
	中	90圓
	下	80圓
乙級	上	70圓
	中	60圓
	下	50圓

個人副賞ハ船ノ大小ニ依リ等差ヲ附セザルモノトス

(官房軍第一三三五號別表乙)

(昭和二十年一月六日海軍公報)

副賞金額表(團體賞)

		8000噸以上	5000噸以上	2500噸以上	1000噸以上	500 噸以上	100 噸以上	100 噸未滿
甲 級	上	1000 <small>圓</small>	850 <small>圓</small>	650 <small>圓</small>	450 <small>圓</small>	350 <small>圓</small>	250 <small>圓</small>	150 <small>圓</small>
	中	900	770	585	405	315	225	135
	下	800	700	520	360	280	200	120
乙 級	上	700	600	450	315	245	175	105
	中	600	510	390	270	210	150	90
	下	500	425	325	225	175	125	75

1199

秘

海軍公報 第四八九五號

昭和二十年一月六日(土)
海軍大臣官房

○令 達

官房教機密第三號
海軍豫備學生教育綱領中左ノ通改正ス

昭和二十年一月二日

海軍大臣

第八條 海軍對潛學校術科教程ニ於ケル教育ハ主トシテ對潛艦艇乗組、防備衛所長(乙)(丙)又ハ水測兵器整備關係初級兵科豫備將校トシテ必要ナル素養ヲ得シムルヲ目的トシ豫備學生ヲ艦艇班、衛所班及水測兵器班ニ分チ各班ニ於テ課スベキ教科目左ノ如シ

一 艦艇班

本		對潛術		機雷術		機雷戰術		戰務		航海術		航空術		潛水術		運川術		氣象		見眼		信號		航海		機雷戰術		對潛戰術		掃海		爆破	
機雷術	機雷戰術	水測	投射	機雷術	機雷戰術	機雷戰術	機雷戰術	戰務	戰務	航海	航海	航空術	航空術	潛水術	潛水術	運川術	運川術	氣象	氣象	見眼	見眼	信號	信號	航海	航海	機雷戰術	機雷戰術	對潛戰術	對潛戰術	掃海	掃海	爆破	爆破
機雷術ノ大要	機雷戰術ノ大要	水測ノ大要	投射ノ大要	機雷術ノ大要	機雷戰術ノ大要	機雷戰術ノ大要	機雷戰術ノ大要	戰務ノ大要	戰務ノ大要	航海ノ大要	航海ノ大要	航空術ノ大要	航空術ノ大要	潛水術ノ大要	潛水術ノ大要	運川術ノ大要	運川術ノ大要	氣象ノ大要	氣象ノ大要	見眼ノ大要	見眼ノ大要	信號ノ大要	信號ノ大要	航海ノ大要	航海ノ大要	機雷戰術ノ大要	機雷戰術ノ大要	對潛戰術ノ大要	對潛戰術ノ大要	掃海ノ大要	掃海ノ大要	爆破ノ大要	爆破ノ大要
機雷術ノ大要	機雷戰術ノ大要	水測ノ大要	投射ノ大要	機雷術ノ大要	機雷戰術ノ大要	機雷戰術ノ大要	機雷戰術ノ大要	戰務ノ大要	戰務ノ大要	航海ノ大要	航海ノ大要	航空術ノ大要	航空術ノ大要	潛水術ノ大要	潛水術ノ大要	運川術ノ大要	運川術ノ大要	氣象ノ大要	氣象ノ大要	見眼ノ大要	見眼ノ大要	信號ノ大要	信號ノ大要	航海ノ大要	航海ノ大要	機雷戰術ノ大要	機雷戰術ノ大要	對潛戰術ノ大要	對潛戰術ノ大要	掃海ノ大要	掃海ノ大要	爆破ノ大要	爆破ノ大要

秘海軍公報 第四八九五號 昭和二十年一月六日

科補																	
機雷戰術	戰務	航海術			運川術	潜水術	航空術	砲術	通信術	電測術							
		氣象	見張	信號													
機雷戰術ノ大要	戰務ノ大要	航海兵器ノ大要、地文航法ノ大要、操艦實習	信號法	見張法ノ大要	天氣圖作製法、天氣豫察法	防備衛所及小艦艇ニ必要ナル運川術	性能、局地哨戒法、敵港灣侵入法	性能、對潜哨戒法、衛所トノ連絡法	對空兵器ノ大要、對空射擊指揮法ノ大要	防備衛所通信兵器ノ大要、通信要務、通信法ノ大要、暗號作製譯法ノ大要	電測兵器ノ大要	電氣磁氣學、電氣音聲學	軍隊教育、指揮統率法	諸要務 防備衛所長、分隊士及當直勤務ニ必要ナル諸要務	諸法規 執務上關係アル諸法規	庶務 庶務ノ大要	武技、體技、體操
取ト得ルコトハ必要ニ適宜 校長ハ必要ニ適宜 校應ハ必要ニ適宜 取ト得ルコトハ必要ニ適宜																	

科																	
對潜戰術	機雷術	對潜	對潜	對潜	對潜	對潜	對潜	對潜	對潜	對潜							
											射	射	射	射	射	射	射
對潜水艦戰ノ大要、對潜圖演	爆藥ノ大要	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器	機雷兵器ノ大要、敷設法ノ大要、防潜網兵器及火工兵器
取ト得ルコトハ必要ニ適宜 校長ハ必要ニ適宜 校應ハ必要ニ適宜 取ト得ルコトハ必要ニ適宜																	

三 水測兵器班

科		本											科									
體	育	要務			軍隊統率法	普、通學	潜水艦	航空術	航海術	戰術	機雷術			對潜術			日	項	目	記	事	
		庶務	諸法規	諸要務							爆破	掃海	敷設	操法	兵器學	水測法						水測法
		庶務ノ大要	執務上關係アル諸法規	分隊士及當直勤務ニ必要ナル諸要務	軍隊教育、指揮統率法	數學、電氣磁氣學、電氣音響	性能、襲撃法、局地哨戒法	航空機ノ大要	信號法ノ大要	對潜水艦戰ノ大要、職務ノ大要	爆藥ノ大要	掃海兵器ノ大要	機雷兵器ノ大要、防潜網兵器ノ大要	機雷兵器ノ大要、水測指彈兵器ノ大要	發火管制法	發火管制法	發火管制法	水測理論ノ大要、水測法、水測指彈法、發火管制法、水測實習、發火管制實習	發射法ノ大要、發射實習見學			
		武技、體技、體操																				

科補
艦艇班ニ同シ

(參照) 內令提要卷二、四八五頁

○ 通 牒

兵備四機密第五〇〇號ノ六
昭和二十年一月二日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

陸軍戰時召集延期實施要領(一般用)中改正ノ件通知

昭和十九年兵備四機密第五〇〇號ノ四ヲ以テ首題ノ件通知(昭和十九年十二月十六日秘海軍公報參照)致候處今般更ニ左記ノ通知正セラレタル旨陸軍省ヨリ通知有之候條可然取計相成度

記

第五號B中「又ハ不正」ヲ削ル

第八號第二項1ヲ左ノ通知ム

1. 充足、變更ヲ實施スルニ方リテハ既配當ノ役種ノ區分ハ適用セサルモノトス

別紙第十二別紙ノ通知ム

(別紙添)

海人三第三號

昭和二十年一月二日

秘海軍公報 第四八九五號 昭和二十年一月六日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

兵役法施行規則第五十條ノ四ノ地域ニ在ル者
中現ニ海軍部隊ニ勤務シタル者ノ召集ニ關ス
ル件通牒

首題ノ件ニ關シ左記ノ通海陸軍協議濟ニ付了知相成度
追テ昭和十九年海人三第二號ノ六二ハ自然消滅ノ義ト了知相
成度

記

一、兵役法施行規則第五十條ノ四ノ地域ニ在ル陸軍在郷軍人中
現ニ海軍部隊ニ勤務シタル者ヲ兵役法施行令第十八條又ハ
陸軍召集規則第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ陸軍部隊ニ召集ス
ル場合ニ於テ現地ニ於ケル海軍最高指揮官ヨリ希望アリタル
トキハ其ノ召集ニ關シ斟酌スルモノトス

二、兵役法施行規則第五十條ノ規定ニ依リ兵籍ニ編入セラレタ
ル者中現ニ海軍部隊ニ勤務シタル者ヲ兵役法施行令第十八
條又ハ陸軍召集規則第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ召集スル場
合ニ於テ現地ニ於ケル海軍最高指揮官ヨリ之ヲ海軍ノ部隊ニ
召集方希望アリタルトキハ原則トシテ之ニ副フモノトス

(諸例則卷ニマ六六〇頁参照)

○ 雜 款

○ 携帶給與通牒發行方勵行ノ件

最近内地ヨリ作戰空輸等ノ爲臺灣各基地ニ進出スル部隊激増ス
ル處之等ノ内ニハ數ヶ月モ俸給其ノ他諸給與ノ支給ヲ受ケズ手
持金漸次缺乏シ酒保代金ノ支拂ニモ困難スルモノ相當多數アリ
而モ携帶給與通牒モ携行シ居ラザル爲便宜ヲ供與セントスルモ
手段ナキ狀況ニ付内地出發前ニ必ズ携帶給與通牒ヲ發行シ之ヲ
携行セシムルカ若シクハ三ヶ月以内ノ俸給前渡スル等ノ處置ヲ
勵行セラレ度
(第十四聯合航空隊主計長)

○ 休養所設置

四日市海軍船舶警戒隊員休養所ヲ昨年十二月一日四日市市濱田
幸町一七五七番地市役所前ニ設置セリ
(横須賀海軍運輸部四日市支部)

○ 事務開始

事 務 所 名	設 置 場 所	事務開始 月 日	電 話	記 事
佐世保海軍軍需部鹿 兒島支部	鹿兒島市堀江町一〇	三月六日		
第六十九防空隊殘 務整理班	木更津航空基地氣付 ウ四五〇ウ二二二内	三月六日		九月二十 日解散
第二百二防空隊殘 務整理班	同 右	同 右		十二月二 日解散
所屬遂行員事務	横須賀海軍工廠内	三月七日		
第二十一衛隊殘務 整理班	第二十五警備隊内	三月七日		

本日軍極秘海軍公報第五八號(甲配付)發行セリ

(兵備四機密第五〇〇號ノ六別紙)

(昭和二十年一月六日祕海軍公報)

工部局
等場
所及
地名
所在

何師管何聯隊區管内在籍准士官、下士官、兵戰時
召集延期(候補)者充足(變更)名簿

調製 年 月 日

業務種別名		業務種別名		業務種別名		業務種別名		業務種別名		業務種別名			
5561	4560	號番連一	別種度要	位順要重	從業年月 (經驗年月)	現官(職)	種 役	應召年月 (現役年月)	歸還 者ノ部官種	徵集年 (任官年)	本籍地	氏 名	充足(變更)
乙	甲												
10/25	10/160												
(六、五、一〇〇)	一〇、〇五												
何	何												
補 一	豫												
二、〇五	(一、一〇)												
	〇												
兵 輜	軍 步												
昭一四	(昭一五)												
何	何												
何	何												
某	某												
5561/6300	甲 國 京 10 都 都 160 一 一 何 津、 某 4560 山												

調製上ノ注意

- 一 本名簿ハ要領第八號ニ依ル戰時召集延期(候補)者ノ充足又ハ變更ヲ實施スル場合ニ於テ使用スルモノトス
 - 二 本名簿ハ佐尉官、准士官、下士官、兵ニ付本籍地所管各聯隊區毎ニ別紙ニ調製スルモノトス
 - 三 本名簿調製ニ方リテハ左ノ各號ニ依ルノ外別紙第四ニ準スルモノトス
 - 1 一連番號、要度種別、重要順位ノ欄
 - イ 戰時召集延期候補者ヲ充足スル場合

配當數中剩餘ニ應スル人員數ヲ充足スル場合ニ於ケル一連番號ハ既申請者ニ附シアル番號ニ次テ配當數ニ充ツル迄逐次附スルモノトシ重要順位ハ既配當ノ要度種別毎ニ充足セントスル總人員ヲ分母トシ其ノ人員中ニ於ケル重要順位ヲ分子トシテ記載スルモノトス
 - ロ 戰時召集延期者ヲ變更セントスル場合

軍要、應召、不正、不明トナリタル人員ヲ充足スル爲既申請者ヲ削除スル場合及戰時召集延期者ヲ變更スル場合ニ於ケル一連番號、要度種別、重要順位ハ削除セシ者ニ附シアルモノヲ其ノ儘使用スルモノトス
 - 2 充足(變更)事由ノ欄
 - イ 軍要、應召、不正、不明トナリタル人員ヲ充足スル場合及戰時召集延期者ヲ變更スル場合當該該當者ノ師管、聯隊區、役種、兵種部、官等級、一連番號、要度種別、重要順位、氏名ヲ記載スルモノトス
 - ロ 配當數中剩餘ニ應スル人員數ヲ充足スル場合ハ配當數ヲ分母トシ充足スヘキ者ニ附スヘキ一連番號ヲ分子トシ記載スルモノトス
- (記載例ハ前者ニ在リテハ軍要、應召、不正、不明トナリタル人員ヲ充足スル場合及戰時召集延期者ヲ變更スル場合ノ一例トシ後者ニ在リテハ配當數中剩餘ニ應スル人員數ヲ充足スル場合ニ於ケル一例トス)

海軍公報 第五〇八一號

昭和二十年一月七日(日)
海軍大臣官房

○令 達

達第一號

内國註文造船造兵工事物件監督検査委託規程中左ノ通改正ス
昭和十九年達第二四九號ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年一月六日

海軍大臣

第二條 海軍艦政本部長又ハ海軍航空本部長ハ必要ニ應ジ左ノ地方ニ造船造兵監督官(以下監督官ト稱ス)ヲ在勤セシメ當該地方ニ於ケル註文工事ノ監督ニ從事セシムルモノトス、
東京、大阪、名古屋、室蘭、廣島、福岡、富山、京城、臺北

監督官監督受持區域ハ海軍艦政本部長又ハ海軍航空本部長ノ定ムル所ニ依ル

第四條 註文元廳長ハ前條ノ規定ニ該當スルモノアルトキハ必要ナル書類、圖面等(監督検査スベキ事項ヲ明示スルヲ要ス以下之ニ同ジ)ヲ添ヘ當該監督官ニ其ノ工事ノ監督ヲ委託シ同時ニ書類ノ寫(一通)ヲ添ヘ之ヲ海軍艦政本部長又ハ海軍航空本部長ニ通知又ハ報告スベシ

第五條 第二項第一號乃至第三號ヲ左ノ如ク改メ同條第三項ヲ削ル

海軍公報 第五〇八一號 昭和二十年一月七日

一 下請工場方自己ノ監督受持區域内ニ在ルトキハ之ヲ監督ニ當ルモノトス

二 下請工場方他ノ監督官ノ監督受持區域内ニ在ルトキハ必要ナル書類、圖面等ヲ添ヘ當該監督官ニ其ノ監督ヲ委託スルモノトス

第五條ノ二 監督官第四條又ハ前條第二項第二號ノ規定ニ依リ監督ノ委託ヲ受ケタルトキハ海軍所定ノ検査規則、圖面等ニ依リ註文工事ノ監督ニ當ルモノトス

第十二條 造船造兵工事物件以外ノ監督委託ニ關シテハ本規程ニ準ズ但シ此ノ場合之ヲ監督委託ヲ海軍艦政本部長又ハ海軍航空本部長ニ請求スルモノトス

(諸例則卷一、一三六頁參照)
昭和十九年達第二四九號ハ大東亞戰爭中監督官監督受持區域(内區)外ニ於ケル註文工事ノ監督検査委託ニ關シテハ内國註文造船造兵工事物件監督検査委託規程第四條第一項第一號ノ規定ニ準ズルノ件ナリ(諸例則卷一、一四〇ノ一頁參照)

達第二號
購買兵器並ニ材料物品檢印規程中左ノ通改正ス
昭和二十年一月六日

海軍大臣

第六條第一項中

浦賀

神戸

八幡

及

長崎

ナカ

ヲ削ル

(諸例則卷三、五五九頁参照)

○通牒

經給第三號

昭和二十年一月四日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

學徒勤勞隊員附添教職員ノ給與ニ對スル課稅ニ關スル件通牒

動員學徒附添教職員ニ支給スル給與中昭和十九年官房經第五三五號(會計法規二卷二〇八ノ三ノ二頁参照)第八號ノ手當及第十號ノ勤勉手當ニ對シテハ一般ノ例ニ依リ甲種ノ勤勞所得トシ課稅セラレ共ノ他ノ給與ニ對シテハ課稅セラレザルコトニ取扱一定相成候

追テ課稅セラルベキ給與ニシテ學校報國隊ニ交付シタルトキハ當該學校ニ於テ課稅セラルル義ト了知相成度

艦本第一一號ノ六

昭和二十年一月六日

關係各廳長殿

海軍艦政本部長
海軍航空本部長

內國監督官監督受持區域ノ件通知

內國註文造船造兵工事物件監督検査委託規程第二條第二項ニ依リ監督官監督受持區域ヲ別表ノ通定ム

追テ昭和十六年艦本第一一號ノ五五八〇ハ之ヲ廢止ス

(別表添)

(諸例則卷一、一四〇ノ二頁参照)

艦本第一一號ノ七

昭和二十年一月六日

海軍艦政本部總務部長
海軍航空本部總務部長

內國各海軍監督長殿

監督官事務所出張所設置ニ關スル件申進

今般達第一號ヲ以テ內國註文造船造兵工事物件監督検査委託規程中改正ニ依リ監督官在勤地一部廢止セラレタル處其ノ缺ヲ補フ爲各在勤地監督官事務所ノ出張所ヲ設クルコトトシ其ノ地並ニ之ガ受持區域ヲ別表ノ通定メラレ候條了知相成度
追テ右以外ノ地ニ從來ヨリ設ケアル出張所ハ分室トスルコトニ定メラレ候

(別表添)

艦本第一一號ノ八

内國造船造兵監督官服務内規中左ノ通改正ス

昭和二十年一月六日

海軍艦政本部長
海軍航空本部長

第十四條

監督長ハ監督官事務所又ハ同出張所ヲ設置スルトキハ之ヲ地名海軍監督官事務所又ハ地名海軍監督官事務所地名出張所ト稱シ左ノ事項ニ關スル内規ヲ定メ海軍艦政本部長及海軍航空本部長ノ承認ヲ受クベシ

一 防火部署及非常時重要圖書處分法

二 當直内規

三 私立會社内勤務ヲ命ジタル補助工員ノ服務内規竝ニ同所交通及通信設備利用ニ關スルコト

第十五條

監督長ハ私立會社内ニ監督官事務所又ハ同出張所ヲ置クトキハ左記事項ニ關シ會社ト協定シ海軍艦政本部長及海軍航空本部長ノ承認ヲ受クベシ

一 監督官事務所又ハ同出張所及同所用備品等ノ貸與又ハ供給ニ關スルコト

二 監督官事務所又ハ同出張所ノ警衛ニ關スルコト

三 監督官以下ノ厨窓設備及交通機關利用ニ關スルコト

四 監督事務ノ爲通信設備利用ニ關スルコト

五 防火部署及非常時重要圖書類處分法

第十六條 監督長受持區域内ニ監督官事務所又ハ同出張所ノ分

室ヲ設置スルトキハ地名海軍監督官事務所地名分室又ハ地名海軍監督官事務所地名出張所地名分室ト稱シ前二條ノ規定ニ準ジ整理スベシ

第十八條 削除

(艦政普法規集七四ノ一頁参照)

○ 雜 款

○ 外國武官離任

在本邦滿洲國大使館附武官輔佐官陸軍少校干澤純ハ一月四日離任セリ

○ 滯在地變更

待命海軍軍醫中尉藤原和夫滯在地ヲ佐世保ヨリ横須賀ニ變更ノ件一月七日認許セラレタリ

待命海軍中尉關野 治滯在地ヲ佐世保ヨリ横須賀ニ變更ノ件一月七日認許セラレタリ

○ 轉官

海軍技師田邊森亮ハ十二月二十三日臺灣總督府交通局技師ニ、海軍司政官江口見登留ハ十二月二十九日内務省監査官兼内務書記官ニ執モ轉官セリ

(艦本第二二號ノ六別表)

(昭和二十年一月七日海軍公報)

監督官在勤地		内國監督官監督受持區域		
		受	持	區
東	京	東京都、神奈川縣、千葉縣、埼玉縣、茨城縣、栃木縣、群馬縣、山梨縣、福島縣、宮城縣、山形縣、岩手縣、秋田縣、青森縣		
大	阪	大阪府、京都府、滋賀縣、奈良縣、和歌山縣、兵庫縣		
名	古	愛知縣、岐阜縣、靜岡縣、三重縣		
室	蘭	北海道、樺太		
廣	島	廣島縣、山口縣、島根縣、鳥取縣、岡山縣、香川縣、徳島縣、高知縣、愛媛縣		
福	岡	福岡縣、大分縣、宮崎縣、熊本縣、鹿兒島縣、長崎縣、佐賀縣、沖繩縣		
富	山	富山縣、石川縣、福井縣、新潟縣、長野縣		
京	城	朝鮮、關東州		
臺	北	臺灣		

(續本第二號)七別表

(昭和二十年一月七日海軍公報)

事務所		出張所		受持區域	
内國監督官事務所、出張所監督受持區域					
東京	横濱	仙臺	東京府、千葉縣、埼玉縣、茨城縣、栃木縣、群馬縣、山梨縣	福島縣、宮城縣、山形縣、岩手縣、秋田縣、青森縣	
大阪	京都	神戸	京都府、滋賀縣	大阪府、奈良縣、和歌山縣	兵庫縣
名古屋			愛知縣、岐阜縣、靜岡縣、三重縣		
室蘭			北海道、樺太		
廣島	岡山		鳥取縣、岡山縣、島根縣		
	松山		廣島縣、山口縣	香川縣、德島縣、高知縣、愛媛縣	
福岡	長崎		福岡縣、大分縣、宮崎縣、熊本縣、鹿兒島縣、沖繩縣		
	新潟		長崎縣、佐賀縣		
富山			富山縣、石川縣、福井縣、長野縣		
京城			朝鮮、關東州		
臺北			臺灣		



海軍公報 第四八九六號

昭和二十年一月七日(日)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一三九三號

第二百十五號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

海防艦 宇 久

佐世保鎮守府在籍

第二百十五號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

第十七號輸送艦

第十八號輸送艦

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

昭和十九年十二月三十日

海軍大臣

内令第一三九四號

第八十二號海防艦

第八十四號海防艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

海防艦 竹 生

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

第八十二號海防艦

第八十四號海防艦

佐世保鎮守府在籍

海防艦 竹 生

第十六號輸送艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

昭和十九年十二月三十一日

海軍大臣

内令第一三九五號

輸送隊編制中左ノ通改定セララル

昭和十九年十二月三十一日

海軍大臣

第二輸送隊ノ項中「第十三號、」ノ下ニ「第十六號、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七四頁参照)

内令兵第九六號

昭和十一年内令兵第四五號中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月三十日

海軍大臣

秘海軍公報 第四八九六號 昭和二十年一月七日

第一項(呼稱番號區分中道濱海軍航空隊ノ項ヲ削ル

附則

本令ハ昭和十九年十二月二十日ヨリ之ヲ適用ス

(參照) 昭和十一年內令兵第四五號ハ航空機番號付與法及其ノ表示方ノ件ナリ(內令提要卷三、二二六ノ四ノ四頁)

官房經機密第四號

損害補償及慰籍內規中左ノ通改正ス

昭和二十年一月五日

海軍大臣

第十一條 本內規ハ防空警報發令中海軍ノ艦船、航空機等ノ軍事行動ニ因リ第三者ニ加ヘタル損害ニ付テハ特ニ定ムルモノヲ除クノ外之ヲ適用セズ

(註) 本條ニ該當スル場合ハ戰時災害保護法ノ適用ヲ受クベキモノナリ

○通牒

官房機密第一三四號ノ二一

昭和二十年一月一日

海軍省副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セラルルモノヲ除キ別冊暗號圖書

現狀表第四三號ニ依リ處理相成度

(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

海人機密第八號ノ六三

昭和十九年十二月二十三日

海軍省人事局長

海軍省醫務局長

各鎮守府參謀長殿

兵役免除ノ制限ニ關スル件通牒中改正ノ件通牒

本年海人機密第八號ノ一八(內令提要卷二、六頁ノ三參照)中左記ノ通改正セラレ候條了知相成度

記

第二號第二項及第三號ノ但書中「搭乘整備員」ヲ「掌整備兵及掌航空兵器兵」ニ改ム

海人三機密第三號ノ三

昭和二十年一月四日

海軍省人事局長

各鎮守府參謀長殿
關係各所轄長殿

現役復歸ノ特務士官、准士官ノ列序ニ關スル件申進

海軍武官服役臨時特例第二條第一項ノ規定ニ依リ現役ニ復歸セシメラレタル特務士官及准士官ノ同官階ノ現役特務士官、准士官名簿上ノ列序ニ關シテハ左記ニ依ル義ト了知相成度

記

一 同日任用進級者ニ付テハ任用進級辭令公報掲載ノ順位ニ依ル

二 任用進級ノ日ヲ異ニスル者ニ付テハ従前ノ役種並ニ勤務日數ノ如何ニ拘ラズ現官任用進級ノ先後ニ依ル

海人一第九號ノ一

昭和二十年一月六日

海軍省人事局長

關係各所轄長殿

豫備士官專修科目變更ノ件通知

左記ノ者ハ孰モ昭和十九年十二月十五日附專修科目ヲ變更セラレ候

記

官等	氏名	專修別		電報符	
		舊	新	舊	新
中尉	森 定良	通信班	兵器整備班	ヨツ三〇三三	ヨハ三〇三三
少尉	田中 政孝	飛行要務班	飛行班	ヨ二五五七舊	ヨヒ四一九一

教育機密第四四三號

昭和十九年十二月二十七日

海軍省教育局長
海軍航空本部長

横須賀、吳鎮守府參謀長
關係各學校校長殿

秘海軍公報 第四八九六號

昭和二十年一月七日

海上交通保護關係事項教育研究ニ關スル件申進
首題ノ件左記ノ通定メラレ候條可然實施相成度
追テ昭和十八年六月十六日教育機密第一七一號ハ廢止セラレ候

記

學 校 名	教 育 研 究 項 目
海軍大(教育中止中海軍對潛學校)	海上交通保護關係作職用兵事項 一 海上交通保護關係ノ綜合 二 海上交通保護制度 三 海上交通保護要務 四 護衛實施法 五 對潛攻擊 六 艦艇ト航空機トノ協同法
海軍對潛學校	
横須賀海軍航空隊	航空機ノ船團護衛並ニ對潛攻擊
海軍航海學校	信號、見張、航海、運動、保安、應急
横須賀海軍砲術學校	射擊
横須賀海軍通信學校	通信
海軍電測學校	電測
海軍工機學校	機關取扱
海軍潜水學校	潜水艦ヨリ見タル對潛攻擊、回避
備考	關係各部ハ相互連絡ヲ密接ニスルモノトス

(參照) 内令提要卷二、五六二頁

○感 狀

感 狀

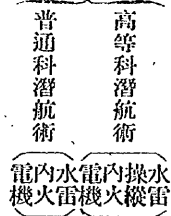
伊號第五十六潜水艦

昭和十九年十月中下旬非島東方海面ニ於テ作戦中勇猛果敢ナル作戦行動ニ依リ克ク敵船團及機動部隊ヲ捕提シ二十四日輸送船大型一隻中型三隻ヲ轟撃沈シ更ニ二十五日大型航空母艦一隻及驅逐艦一隻ニ對シ肉薄攻撃ヲ敢行シ之ヲ撃沈シタルハ其ノ功績顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス
昭和十九年十一月十六日
聯合艦隊司令長官 豊田 副武

○雜 款

○銓衡試験問題發送

昭和十九年度後期



特技章付與銓衡試験問題

(試験期日 昭和二十年一月十日)

右昨年十二月二十日左記ノ通發送済末着又ハ別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部又ハ警備府若ハ海軍潜水學校へ至急通知相成度

記

- 一 單獨試験實施豫定ノ各部ニハ直送
- 一 聯合試験用ハ各海軍人事部各警備府宛送付
- 一 行動豫定變更其ノ他ノ理由ニ依リ單獨實施用トシテ若干前記各部ニ送付

(海軍潜水學校)

昭和二十年二月第四期海軍下士官候補者銓衡試験(昭和二十年二月一日施行)問題ハ一月一日附各艦隊、鎮守府、警備府、練習聯合航空總隊、海上護衛總司令部及海軍經理學校宛發送済未着又ハ別ニ所要ノ向ハ海軍省教育局ニ請求相成度
(海軍省教育局)

○事務開始

事務所名	設 置 場 所	事務開始月日	電話	記事
第十四聯合航空隊司令部業務整理事務所	臺南航空基地内	三月一日		
第三千二百一十一設營隊	佐世保海軍施設部第三課内	三月三日		
第七十七號海防艦艇裝具事務所	横濱市鶴見區辨天町一七日本鋼管株式會社鶴見造船所内	三月三日		
驅逐艦裝具事務所	横須賀海軍工廠内	三月六日		
第三百十六設營隊	宮崎縣宮崎市	三月六日		三月元日移轉ニ付

秘

海軍公報 第四八九七號

昭和二十年一月八日(月) 海軍大臣官廳

○令 達

官房教機密第五號

左表ニ依リ昭和十八年官房教機密第四一號ニ依ル艦艇長任命前ノ兵科豫備將校講習ヲ施行ス

昭和二十年一月四日

海軍大臣 臣

講習場所	講 習 員 數	講 習 期 間
海軍對潛學校 (海軍豫備員)	海軍少佐、海軍大尉 約十名	自昭和二十年一月五日 至昭和二十年三月四日
備考	講習員ハ講習期間中海軍對潛學校附トス	

官房人機密第六號

當分ノ内召集中ノ海軍ノ飛行科又ハ整備科ノ豫備准士官又ハ豫備下士官ニシテ海軍豫備員ヨリスル海軍武官任用等特別ニ依リ現役ノ武官タランコトヲ志願スルモノノ出願範圍竝ニ願書及考課表ノ進達期日等ニ關シ左ノ通定ム

昭和二十年一月六日

海軍大臣 臣

- 一 志願者ノ範圍
- (イ) 召集中ノ海軍ノ飛行科又ハ整備科ノ豫備准士官又ハ豫備下士官タル者

秘海軍公報 第四八九七號 昭和二十年一月八日

(ロ) 海軍豫備練習生タル者ニシテ第三號ノ任用期日(同)

程ヲ修業シ豫備下士官ニ任用ノ見込アルモノ

二 願書及考課表進達期限

毎年二月十五日及八月十五日

三 任用期日

毎年五月一日及十一月一日

四 雜 件

現役ノ准士官又ハ下士官ニ任用セラレタル者ノ任用進級ニ必要ナル實役停年及増俸停年ニ關シテハ各其ノ豫備准士官又ハ豫備下士官トシテ召集中ノ日數ヲ通算ス

官房經機密第五號

昭和十九年官房經機密第三七九號艦隊以外ノ艦船ノ經費ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年一月六日

海軍大臣 臣

「艦船」ノ下ニ「又ハ航空隊」ヲ加フ

附 則

本令ハ昭和二十年一月一日ヨリ之ヲ適用ス

(參照) 海軍機密會計法規類集八頁

○通 牒

1214

經豫機密第三號ノ一

昭和二十年一月六日

海軍省 經理局長

關係各支出官殿

航空隊ノ經費ニ關スル件通牒

今般官房經機密第五號ヲ以テ艦隊以外ノ航空隊(司令部ヲ含ム)ノ經費ニ付テモ之ヲ艦隊經費支辨ト爲シ得ルコトト相成候處本件ハ常時移動性ニ富ミ眞ニ事情止ムヲ得ザルモノニノミ之ヲ適用シ得ル趣旨ヲ以テ發令セラレタルモノニ有之候條可然取計相成度

經豫第三號ノ二

昭和二十年一月六日

海軍省 經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

政府ヨリ恩給ヲ受クル者ニ召集中支給スル手當ノ支辨科目ニ關スル件通牒

明治三十八年勅令第七十九號ニ依ル首題手當ハ左記ノ通ト了知相成度

記

臨時軍事費特別會計

臨時軍事費(款、項)、雜給及雜費、諸手當

海軍火藥廠作業會計

海軍火藥廠作業費、作業費、諸給與、雜給

海軍燃料廠作業會計

海軍燃料廠作業費、作業費、諸給與、雜給

(參照) 海軍會計法規類集二卷七七七頁

航本機密第六〇號

昭和二十年一月六日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

航空發動機名稱ノ件通知

性能、構造、裝備、補機ノ小變更ニ伴ヒ各種發動機名稱左ノ如ク定メラレ候條了知相成度

發動機名稱	說	明	備	考
天風發動機 一甲型	「キユノール」式油濾器ヲ裝	備セザルモノ	十月三十一日航本	機密第一三四三八
天風發動機 一二乙型	「キユノール」式油濾器ヲ裝	備セザルモノ	現在豫定	
榮發動機 三一型	榮二型ニ「メタノール」	噴射ヲ行ヒ性能向上セル	現在生産中	
榮發動機 三一甲型	構造上榮三一型ト管シテ	シテ實施シ非ザルモノ	現在生産中	
榮發動機 三一乙型	三一甲型ノ過給器驅動齒	車ノ増速比榮二型ト同	三裝製零戰ニ少數	裝備シテ現在生
榮發動機 三一丙型	噴射ヲ實施スルモノ	「メタノール」	現在ナシ	
火星發動機 二二甲型	火星二型ヲ噴射式トセ	ルモノ	二式飛行艇ニ裝備	
火星發動機 二三甲型	火星二三型ノ充電用發電	機ヲ大型トセルモノ	假稱雷電二三、三	型ニ裝備生産中

領海軍航空隊殘務整理班	第九五一領海派遣隊內	三月五日	三月五日
第四五三海軍航空隊殘務整理班	第九五一指宿派遣隊內	同	同
第二五六海軍航空隊殘務整理班	第九五一上海派遣隊內	同	同
沖繩海軍航空隊殘務整理班	第九五一小祿派遣隊內	同	同

○電話番號變更
 仙臺局 新 自五二四〇番
 至五二四二番
 舊 五〇六三番
 四二五〇番
 代表 五二四〇番

(多賀城海軍工廠)

合同海軍葬儀執行			
期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所
一月十三日 〇九〇〇	故海軍大佐大迫 東外諸勇士	鹿兒島地方海軍人事部長	鹿兒島市西本願寺 佛式
一月十三日 一〇〇〇	故海軍軍醫中佐早川貞雄外諸勇士	名古屋地方海軍人事部長	大谷派本願寺名古屋 別院
一月十六日 〇九三〇	故海軍少將高島三治外諸勇士	神戸地方海軍人事部長	神戸港軍隊休憩所
一月十九日 〇九三〇	故海軍少佐藤澤茂雄外諸勇士	岡山地中海軍人事部長	岡山市内山下國民學校

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第四八九八號

海軍大臣官房

昭和二十年一月九日(火)

(本紙下引換前紙ハ燒却相成度)

○令 達

内令第一三八五號

右本籍ヲ吳鎮守府卜定ム

第二百二十號驅潛特務艇

昭和十九年十二月二十八日

海軍大臣

内令第一三八七號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月二十八日

海軍大臣

第十六警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第六十七號(領)」ノ次ニ

「第二百二十號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一號

昭和十八年内令第一二號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和二十年一月一日

海軍大臣

「第九五三海軍航空隊」ヲ「第九〇一海軍航空隊」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四二頁参照)

内令第二號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年一月一日

海軍大臣

吳鎮守府ノ部中第九三三海軍航空隊ノ項ヲ削ル

佐世保鎮守府ノ部中第二五四海軍航空隊、第四五二海軍航空隊、第九五三海軍航空隊及第九五四海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第三號(軍機祕海軍公報第五九號(乙配付)ニ掲載)

内令第四號

舞鶴鎮守府豫備艦

軍艦利根

右練習兼警備艦卜定メラル

昭和二十年一月一日

海軍大臣

内令第五號

汽船快風丸

右特設砲艦トシ横須賀鎮守府所管卜定メラル

秘海軍公報 第四八九八號 昭和二十年一月九日

二三

昭和二十年一月一日

海軍大臣

内令第六號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和二十年一月一日

海軍大臣

船名	特設艦船種別	所管
汽船 第二萬代丸	特設艦船種別	横須賀鎮守府
同 第六惠山丸		
同 第七惠山丸		
同 第八惠山丸		
同 第一大平丸		
同 蛭子丸		
同 第三仙賀丸		
同 伯州丸		
同 五號宮嶽丸		
同 妙見丸		
同 第十二池山丸		
同 第七海上丸		
同 第十三日ノ丸		
同 第十四日ノ丸		
同 第二十三日ノ丸	特設艦船種別	吳鎮守府
同 第二十四日ノ丸		
同 第二十五日ノ丸		
同 第三十一日ノ丸		
同 第三十二日ノ丸		
同 第四十八日ノ丸		
同 第六十二日ノ丸		
同 第六十三日ノ丸		
同 第九神威丸		
同 第九自神丸		
同 第十一郵船丸		
同 第二十七郵船丸		
同 第五赤倉丸		
同 第四十三日ノ丸		

内令第七號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月一日

海軍大臣

佐世保防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「竹東丸(佐)」ノ次ニ「第一一郵船丸(佐)、第二十七郵船丸(佐)、第五赤倉丸(佐)、第四十三日ノ丸(佐)」ヲ加フ
 高雄海軍警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄ニ「第十三日ノ丸(吳)、第

十四日ノ丸(吳)、第二十三日ノ丸(吳)、第二十四日ノ丸(吳)、
第二十五日ノ丸(吳)、第三十一日ノ丸(吳)、第三十二日ノ丸
(吳)、第四十八日ノ丸(吳)、第六十二日ノ丸(吳)、第六十三日
ノ丸(吳)、第九神威丸(吳)、第九白神丸(吳)」ヲ加フ
第一護衛艦隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第三海軍上海衛隊	第二萬代丸(横) 第六惠山丸(横) 第七惠山丸(横) 第八惠山丸(横) 第一大平丸(横)
----------	--

第十六警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「開南丸(吳)」ノ前ニ「姪子丸(横)、第三仙賀丸(横)、伯州丸(横)、五號宮嶽丸(横)、妙見丸(横)、第十二池山丸(横)、第七海上丸(横)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第八號
潛水隊編制中左ノ通改定セラル
昭和二十年一月四日

海軍大臣

第三十四潛水隊ノ項中「呂號第五十、」ノ下ニ「呂號第五十五、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

官房教機密第九號

左表ニ依リ昭和十八年官房教機密第四一號ニ依ル召集直後ノ兵科豫備將校艦船配乘講習ヲ施行ス

昭和二十年一月八日

海軍大臣

講習場所	講習員數	講習期間
海軍航海學校	海軍少尉(豫備員) 約五〇名	昭和二十年一月十日應召參事後約一月間
海軍工機學校	同 右 約四〇名	同
備考	講習員ハ講習期間中海軍航海學校及海軍工機學校附トス	

官房艦機密第七號ノ四

昭和二十年二月八日

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿

兵器簿ノ件通達

各艦船部隊學校兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正ス

記

區分	類別	品名	數量	備考
削除	砲術科諸要具	六倍稜鏡双眼鏡	定數全部	航海長主管ニ移管ノタ
削除	同	七倍稜鏡双眼鏡		
削除	同	八倍稜鏡双眼鏡		

官房艦機密第七號ノ五

昭和二十年一月八日

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿

兵器廠ノ件通達

各艦船兵器廠砲術長主管之部中左記ノ通改正ス

記

改正	區分	類別	品名	改正定数	該當艦種	摘要
改正		砲術科諸要具	秒時計	一型	戰艦、巡洋艦	雜記ニ示ス主兵器附着ノモト
改正		砲術科諸要具	秒時計	五個	航空母艦	シノハ其ノ儘
改正		砲術科諸要具	秒時計	二個	海防艦、特務艦、驅逐艦、掃海艦	ノノミヲ上モ
						定数ニ改ム

○通牒

兵備四機密第五〇〇號ノ五

昭和二十年一月八日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

陸軍戰時召集延期候補者ノ充足ニ關スル件申進

昭和十九年兵備四機密第五〇〇號ノ四(昭和十九年十二月十六日秘海軍公報參照)ニ依ル戰時召集延期實施要領(一般用)第八號ノ充足ヲ要スル各廳ハ其ノ員數ニ就キ調査官ヨリ割當ヲ受クルコトニ定メラレ候

○雜款

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始日	電話記事
與海軍軍需部關門支	關門支	三月六日	
第七十七號海防艦艇裝具事務所	横濱市鶴見區辨天町一七	三月三日	
海防艦久賀艦裝具事務所	佐世保海軍工廠内	三月六日	
第七十九號海防艦艇裝具事務所	横濱市鶴見區辨天町一七	三月六日	
第二百十九號海防艦艇裝具事務所	大阪市内西成區北賀屋町二	三月六日	

○事務所撤去

事務所名	撤去月日	記事
第百五十號海防艦艇裝具事務所	二月二十四日	
第百十八號海防艦艇裝具事務所	二月二七日	
伊號第四百潜水艦艇裝具事務所	二月三〇日	
第十六發輪送艦艇裝具事務所	二月三十一日	

○本日軍機秘海軍公報第五九號(乙配付)發行セリ

配付先
各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同支廠

○本日海軍公報發行セズ

海軍公報

第五〇八二號

○令 達

達第三號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

昭和二十年一月七日

海軍大臣 臣

第七表ノ二中略衣袴及略帽ノ各項ヲ夫々左ノ如ク改ム

略衣袴	一	一
略帽	一	一

第八表中略衣袴及略帽ノ各項ヲ夫々左ノ如ク改ム

略衣袴	一	一
略帽	一	一

第八表ノ三中略衣袴及略帽ノ項ヲ削ル

第九表中夏衣袴ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

略衣袴	一	一
-----	---	---

同表中軍帽ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

略帽	一	一
----	---	---

海軍公報 第五〇八二號 昭和二十年一月十日

昭和二十年一月十日(水)

海軍大臣官房

第十一表中略衣袴及略帽ノ各項ヲ夫々左ノ如ク改ム

略衣袴	一組無期	同上
略帽	一個無期	同上

第十七表中豫備學生及豫備生徒ノ部夏袴ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

略衣	褐青色布製
略袴	褐青色布製
略帽	褐青色布製

同表中生徒、豫備學生及豫備生徒ノ部略帽、略衣及略袴ノ項ヲ削ル

附則

生徒、飛行豫科練習生、飛行術練習生タル下士官及兵並ニ軍樂科下士官及兵ニ現ニ交付中ノ略衣袴及略帽ハ還納ノ手續ヲ爲シ之ヲ貸與品タル作業服衣袴又ハ略帽トシテ使用セシムルコトヲ得

○雜款

○休職満期
休職海軍技師塚本三子夫ハ十二月二十八日休職満期トナレリ

七